

DEALモデルに基づいたOPPシート活用による国語科授業改善

第1分科会 長谷川 禄高
(村上第一中・R5年度・国語)

主張

国語科教育の振り返りにおいて、授業構成の適否、学習状況の把握と働きかけ、資質能力の育成のために有効とされているOPPシートにDEALモデルの観点から改善を行うことで、表現技法や作品の描写、表現に着目した振り返りをすることが出来る。

1 主題設定の理由

採用から二年が経過し、自分自身の授業実践の課題として、生徒は授業において課題解決に取り組み、課題解決に至ることが出来ているが、知識の定着の確認として同様の問題を個別に与えた際には、表現技法や作品表現に着目した読解ができない生徒が多い現状がある。

生徒が振り返りを記載した振り返りシートを分析すると、振り返りを行っても記載内容が授業の感想や重要語句の羅列であり、作品の描写に注目をしたり、学んだ表現技法の効果まで記述していたりする振り返りが少なく、生徒自身で考えをまとめたり学びを整理する場面が欠如していた。

そこで私は、国語科における充実した振り返りの達成の条件として以下の3点を定義づけた。

- (1) 本時の振り返りの記述として、授業で学んだ知識（表現技法や着目した描写）を正確に記述している。
- (2) 課題解決の手立てを記録している。
- (3) 本時の内容と過去の自己の学びを関連付けることが出来ている。

※1

このような振り返りの実現に向け、堀（2019）が示すOPPシート（※2）の在り方を再度学んだのち、小林、梶浦（2021）で示された「DEALモデル」の観点で改善を行うことで、表現技法や作品の表現に着目した学びを整理した振り返りの指導にあたることが出来ると考えた。

※2 OPP…堀が開発したOnePagePortfolioの略、学習履歴を記録し、自己評価するシート

2 研究の内容と検証方法

(1) 研究の内容

堀（2019）が示すOPPAの定義を踏まえ、作成したOPPシートで振り返りを記述させる。その後、OPPシートの記述を分析し、指導及び授業改善にどのように活かせるかを考察する。

加えて、梶浦、小林（2021）の「問題の着目」「問題解決過程での思考への着目」「自己にとって学びの価値への着目」の3stepをOPPシートに取り入れ、毎授業後及び単元末に振り返りを行うことで生徒に知識の習得、課題解決の手立ての獲得、既習事項との関連付けを促す。

(2) 検証方法

対象は、成績が中位であり、授業への取り組みの意欲はあるが、振り返りや自身の学習の履歴をまとめることに苦手意識を持っている生徒A（中学1年）とする。

実践1 堀（2019）が開発した OPP シートを用いた振り返りを行い、表現技法や、本文の記述に着目することが出来ているかを見取る。

実践2 検証1における課題を、梶浦、小林（2021）の3 step の観点から OPP シートを改善し、同様に振り返りを行い内容の変遷を分析する。

3 研究の実際

実践1 堀が開発した OPP シートを用いた振り返りを行い、課題を分析する。

(1) OPP シートを用いた振り返りの内容の分析

実践として、堀（2019）と堀、中島（2022）を参考に OPP シートを作成し、生徒 A の振り返りの様子を記録した。

授業者は対象生徒が第一学年であったことも踏まえ、単元を通しての学習前後の振り返りと、授業ごとの振り返りそれぞれがあること説明し、めあてに対して大切だと思ったことという観点で学びを記述するように指導を行った。生徒 A の授業後、単元の振り返りを以下に示し課題を考える。

授業後の振り返り【実践1】

〈単元名「さんちき」（東京書籍1年国語）〉

◎めあて 本文を通読し、初読の感想を持つ	○大切だと思ったこと はじめて読んだ話だった。親方とさんきちの気持ちが分かった。
	質問

単元末の振り返り【実践1】

[学習後]

○人物や情景のどのようなところに注目すべきだろうか ・いつ、どこで、だれとの時間、場所、人物が大切
○作品から読み取り、想像する上で重要なことはどのような事だろうか ・どこで何をしているかでそうぞうの内容が詳しくなる。



○学習前・学習中・学習後を振り返ってみて、何がかわったか？どのようにかわったか？また、わかったこと変わったことについてあなたは思うか。 ・初読の感想から、疑問に思ったことを出し、みんなで考えていくことが大切だと思った。時代、場所、人物関係に注目しながら、性格などの疑問を考えることが楽しかった。親方の気持ちやさんきちのきもちもそれぞれ違っていて、とても性格の違いがあるんだと思ったし、ここが一緒だとも思った。

生徒 A の授業後の振り返りについて着目すると、めあてに対して、授業中での大切だと思ったことの内容が抽象的なものにとどまっている。そのため、授業後の振り返りが単元末に生かしづらいものになっている。

単元末の振り返りも、親方やさんきちが「どのような性格」で、その性格を「どのようなこと」から読み取ることが出来たのか、最後の性格の一致している場所は「どのようなところ」なのかの具体性がある振り返りを記述させることが出来なかった。

(2) 実践1を通して発見した課題と、改善

実践1の結果から分かった課題は主に以下3つのことが考えられる。

- ① 授業後の振り返りにおいて、めあてと大切だと思ったこと記述に関連性をもたない場合がある。
- ② 授業後の振り返りにおいて、習得した知識がどのようなものがあるかについて具体性がなく、単元を通して振り返りを行う際に、授業後の記録が生かされにくい。
- ③ 単元末の振り返りの際に、単元全体を通して習得した知識がどのようなものなのか(登場人物の人物像等)や、なぜその知識が身についたのかの道筋が不明瞭である。

上記の改善するために、はじめに毎時の振り返りの方法に着目した。改善の視点として梶浦の「問題の着目」「問題解決過程での思考への着目」「自己にとって学びの価値への着目」の3stepをOPPシートに取り入れた。

- 1.授業で解決した(取り組んだ)問題は何ですか?(問題そのものへの着目)
- 2.問題を解決するためにどんなことを手掛かりにしましたか?(問題解決過程における思考への着目)
- 3.今日の学習の中で自分が一番大事だと感じたことは何ですか?(自己にとって学びの価値への着目)

上の改善の視点に加えて、「大事だと感じたこと」ではなく、課題に取り組み分かったことを記述するように変更を加えた。

実践2 梶浦、小林(2021)3stepの観点からOPPシートを改善し、振り返りの内容の変化を見とる

(1) 改善の実際

梶浦の3stepの観点を基に、OPPシートの毎時の振り返りと、授業の構成に改善を加えた。OPPシートのめあてを記入する部分には、授業で取り組んだ課題を示し、板書にはその課題を解決するために講じた「手立て」を必ず記録するようにした。そして授業を通して、大切だと思ったことから課題解決を通してどのようなことがわかったのか、得た知識は何かを問う形へと変更した。

(2) 改善後の振り返りの記述の変化

実践1で取り上げた生徒Aの授業後、単元の振り返りを以下に示す。

授業後の振り返り【実践2】

〈単元名 「月夜の浜辺」(東京書籍1年国語)〉

○取り組んだ課題	○課題解決の手立て
月夜の浜辺の表現技法を捉える	本文を繰り返し味わうことで、気になる表現を捉える
	○課題解決で得た知識
	反復法、同じ表現を繰り返すことで読者に印象付けを行う。反語、文を疑問表現で終わらせ、続く部分を省略し強い否定を表す。

単元末の振り返り【実践2】

[学習後]

- この詩における、構成上の特徴はどんな点だろう。
- ・反語 ①文を疑問表現で終わらせ、続く分を省略し強い否定を持つ②わざと逆の表現を用いて皮肉的に表現する。
 - ・反復法 ②同じ表現を繰り返すことで読者に印象付け強調する。
 - ・対句 ③詞に用いられた表現を繰り返すことで読者に印象づけ強調する。(反復法と類似した理解であったため、振り返りシートを回収後声掛けをおこなった。)

○場面を追うごとに、主人公の心情はどのように変化していったのだろうか

- ・場面① (表現) 対句・反復 (思い) ボタンが落ちてる、何となくひろう
- ・場面② (表現) 対句・反復 (思い) 何となく捨てれない、すてれないなあ
- ・場面③ (表現) 対句・比喩・反復 (思い) なんとなくしみる、あしみる
- ・場面④ (表現) 反復・反語 (思い) 気に入った、やっぱりすてれない



○学習前・学習中・学習後を振り返ってみて、何がかわったか？どのようにかわったか？また、わかったこと変わったことについてあなたはどうか。

[学習前]

学習前は作品の言っている意味すら分からなかった。表現技法というのを知り、場面ごとの思い等を考えているうちに、何となくだけ意味もわかったような気がする。

[学習後・感想]

学習後は何となく意味が分かるようになり、少し悲しい話と考えた。ボタンへの思いを知ったうえで読むと学習前より楽しんで読むことが出来た。自分が分かったことを復習として OPP に書いていると何となくうつしていた知識もわかってきて知識が増えたという実感がわいてきた。

以上の単元の振り返りをみると、学習した表現技法と、その効果に基づいた場面ごとの作者のボタンへの思いの変化を学習した各授業後の振り返りを生かし、単元末の振り返りでは作品全体が纏う、孤独感や悲しさの理解に至っていることがわかる。

4 成果と課題

(1) 成果

本研究では、生徒にとって深い振り返り実現に向け、梶浦 (2021) の「問題の着目」「問題解決過程での思考への着目」「自己にとって学びの価値への着目」の考えを基に、OPP 振り返りシートの改善及び指導を行った。実践後、学習課題の明記と、得た知識を具体的に記述するようになり、単元を通して得た知識と、なぜその知識を授業内で習得したのか、解決の手立てまで記録する姿があった。

また、抽出した生徒 A の実践 2 における単元の振り返りから、授業で考え学んだことを振り返りとして、自身の考えを記述することで理解が更に深まったことがうかがえるとともに、授業後の振り返りが詳細になったことで単元全体での知識の関連を意識しながら学習させることができた。

(2) 課題

本実践では、各単元で扱う教材の特徴がそれぞれ異なるため、一律に充実した振り返りの成果がでるか判断できないという点がある。そこで、抽出生徒に対する今年度の実践と比較し、より実践の成果を信頼できるものにしたい。加えて、今回の実践では、抽出した生徒が 1 名のみであったため、実践の客観性が低いままとなってしまった。そのため今後の研究では、抽出する生徒数を増やし客観性を挙げるとともに、個の分析と該当する生徒群全体の分析も併用して行い、研究結果をより妥当なものにしたい。

参考文献

- ・堀哲夫『新訂 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 東洋館出版社, 2019. 8. 23
- ・堀哲夫 中島雅子『一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業』東洋館出版社, 2022. 12. 28
- ・小林和雄 梶浦真『すべての子どもを「深い学び」に導く【振り返り指導】』教育報道社出版, 2021. 7. 9
- ・小林和雄 梶浦真『「振り返り」の基礎知識』教育報道出版社, 2024. 7. 30